

報告タイトル (* 日本語と英語両方ご記入ください)

政変後の民主主義再編と政治秩序の再構築
— バングラデシュ 2024 年政変から 2026 年国民議会選挙まで
Democratic Reordering and the Reconstruction of Political Order:
Bangladesh from the 2024 Political Upheaval to the 2026 Parliamentary Elections

氏名(所属)

曾根啓太(立教大学)、日下部尚徳(立教大学)、田中志歩(立教大学)
Keita SONE (Rikkyo University), Naonori KUSAKABE (Rikkyo University)
Shiho TANAKA (Rikkyo University)

要旨(800 字程度)

本発表では、2024 年にバングラデシュで発生した政変を契機とする政治変動を事例に、同国における民主主義、市民社会、国際関係、および 2026 年 2 月 12 日に実施された国民議会選挙のプロセスと結果を総合的に考察する。

2024 年 1 月の総選挙では、与党アワミ連盟(AL)が圧倒的多数を獲得したが、主要野党であるバングラデシュ民族主義党(BNP)がボイコットし、選挙の正当性が国内外で強く疑問視された。同年 7 月に、公務員特別採用枠廃止に反対する運動への強硬対応が政変を決定的にした。

2024 年 8 月、抗議運動の高まりの中でシェイク・ハシナ元首相が辞任し、ムハマド・ユヌスを主席とする暫定政権が成立した。

2026 年 2 月 12 日に実施された国民議会選挙は、2024 年政変後初の総選挙として、国内外で民主主義の試金石とみなされた。1 億 2700 万人を超える有権者が参加し、高い関心と期待が示された。

選挙結果として、BNP が議会定数の 3 分の 2 に相当する多数を獲得した。一方で、AL は登録抹消により選挙に参加できず、BNP と対立するイスラム政党を中核とする連合が第 2 勢力として議席を確保した。また、選挙と同時に実施された国民投票では、憲法改革を求める「7 月憲章」が有効票の多数を占め、制度的改革への国民的支持が示された。

これらの結果は、政治的混乱を経た後の民主的意思決定プロセスの回復を象徴するものであるが、同時に幾つかの困難な課題を露呈している。第一に、反体制運動から選挙勝利に至った BNP が、旧体制下で形成されていた政治秩序をどのように転換し、民主的ガバナンスの安定化を進めるか。第二に、政治的包括性と公正性の保証の確保。第三に、経済的課題や社会的格差が与える政治的安定への影響である。

本発表では、これらの一連の政治過程を文脈化し、民主主義・政軍関係・市民社会・国際関係・選挙制度の各側面から分析を行い、南アジア地域における政治変動の構造的特質とその含意を提示することを目的とする。